

わが町の名人・達人・職人

だれもが認める

『ものづくり』名人

末廣 すえひろ
功さん いさお

(昭和4年8月28日生まれ)



今月号は、魚島の「ものづくり名人」末廣さんを紹介します。

「イヤとは言わないキップのよさ」「おっちゃん、今度アレつくってちょうだいよ」

『おう、アレか、いつまでになんばいるんかいの』

道端でのすれ違いざまに交わされる会話は、あうんの呼吸そのもの。中には、こむずかしい面倒な注文も

含まれている。だけど、おっちゃんは簡単には断らない懐の深さを持ち合わせている。長年培った経験と技を駆使して、何事にも前向きに挑戦する姿勢を崩さない。

出来上がった『モノ』は、誰もが納得する出来栄えの逸品ばかり。そこには、いぶし銀の技は言うまでもなく、独自の創意工夫の術が施されている。試行錯誤を繰り返す粘り強さは、生来のものではない。

本職はこの道五十年の

船・家大工さん

もう既に一線は退いているものの、かつては腕のよい船大工として衆望を集め、島内外に揺るぎない存在感を示していた。生涯手がけた木造の新船は、なんと三十数隻を数える。しかしながら、近年の著しい工業化の波に押されて、名工の出番は激減。やむなく陸に上がり、柱立てに専念して築き上げた家の数は八軒。

時代の激しい流れに翻弄されながらも、おっちゃんにはひるむことも落ち込むこともなかった。海岸の流木を拾い集め、磨き上げて立派な置物に仕上げた。動かなくなった古い柱時計のゼンマイに息を吹き込み、平成の時を刻ませてもいる。激動の昭

和を生き抜いてきた戦前派には、モノを大切にすることへの心掛けが総身に染み付いている。



末廣さんの作業場には息を吹き返した古時計がいっぱい

いつしか夏休みの工作の先生として、子どもたちからも慕われるようになった。請われて学校の講師を務めたこともあった。もちろん親たちからも家具の修繕や工作物の用命が次々と舞い込んだ。こうして『よろず便利屋』として、昭和が培った名工が平成の世に見事蘇ったのだ。

世代頭から地域のリーダーに

若かりし頃は青年団長、中堅どころは消防団長にPTA副会長、さらには壮年会長をつとめるなど、常にその世代のリーダー役を買って出た。もともと世話好きなのかも知れない。なにをするにも、その名前の響きがめでたく、人柄も相まって好印象。本人も名前そのものを自己アピールの材料として活用している。

現在は魚島地区の自治会連合会長として、地域自治のリーダー役も担っている。合併後も進む少子高齢化をしつかりと受け止めて、高齢者が余生を楽しめる場を創出したいと願う。ロッキングチェアを作ったり、神社を繕ったりするなど、その準備は怠りなく着々と進められている。伴侶をはじめ、周りへの感謝の気配りも忘れてはいない。

最後に末廣さんからひとこと。

『気持ちは今も
青年団じゃ』

生涯現役の一言は、ずしりと重い。

このコーナーでは、町のいろいろな人の情報をお待ちしています。

■上島町企画情報課

TEL 0897-771-2500